

# 認知症を知る

認知症は誰でも起こりうる脳の病気です  
 どれくらいの人がそれについて正しい知識をもっているでしょうか  
 まずは認知症を理解することから始めましょう

## 低い認知症の理解度

今後増え続けると言われている認知症。高齢化率が高くなっている本町も他人事ではない問題です。果たして、これについてどれくらいの人が正しい知識をもっているのでしょうか。

一般的に、認知症の理解度はとても低く、誤った先入観を持っている人が少なくないというのが現実です。

認知症と聞くと▼物忘れがひどく、家族の顔もわからなくなる▼徘徊をするーなどを思い浮かべるのではないのでしょうか。これは認知症の症状の中でも、かなり進行した状態なのです。すぐにこの症状が現れるわけはありません。そこに至るまでは、さまざまな段階がある他、軽度な症状のまま進行しない場合もあります。

認知症は、人によって症状も違えば、程度も違うのです。

まずは、正しく理解することが先決です。

## 中核症状と行動・心理症状

認知症の症状には大きく分けて2つあります。

脳の細胞が壊れることで直接起こる「中核症状」。この症状は▼覚えていたはずの記憶が失われる記憶障害▼年月や時間など基本的な状況を把握できなくなる見当識障害▼考える速度が遅くなったり、2つ以上のことがうまく処理できなくなる理解・判断力の低下▼計画を立てることが難しくなり、日常生活がうまく進まなくなる実行機能の低下ーなどが主なものです。中核症状が出始めると、周囲で起こっている現実を正しく認識できなくなります。

次に本人がもともと持っている性格、環境、人間関係などさまざまな要因が絡み合って、精

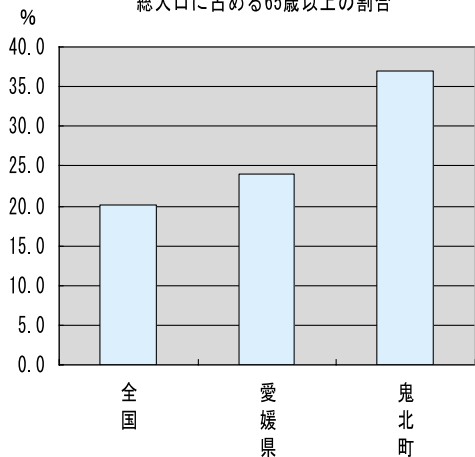
神症状や日常生活への適応を困難にする行動上の問題を「行動・心理症状」と言います。

以前はできていたことも、時間がかかる上に、うまくできなくなります。そして全てが面倒になり、以前は面白かったことでも、興味がわかないと感じる場合があります。その他、将来に望みを失ったり、ものを盗られる妄想をしたりと症状はさまざまです。

## 正しい理解で認知症と向き合う

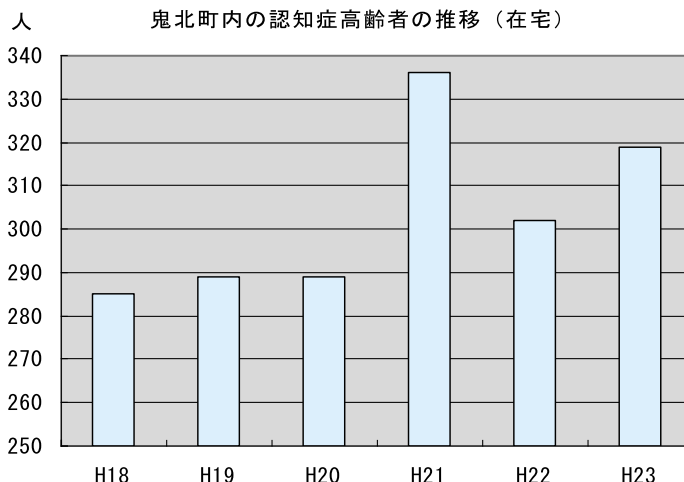
これらは、症状のごく一部です。前述のとおり、認知症は現れる症状や進行速度がまちまちなのです。また、早期発見や周囲の配慮によっても、症状の軽減や進行速度を遅らせることはもちろん、患者本人の「こころ」を傷つけずに済むことにもつながります。正しい理解を持って向き合うことが重要です。

総人口に占める65歳以上の割合



※全国・愛媛県 H17 年国勢調査数値  
 鬼北町 H23. 4 月現在

鬼北町内の認知症高齢者の推移 (在宅)



※認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ a~M (日常生活に支障をきたす程度)の人の数